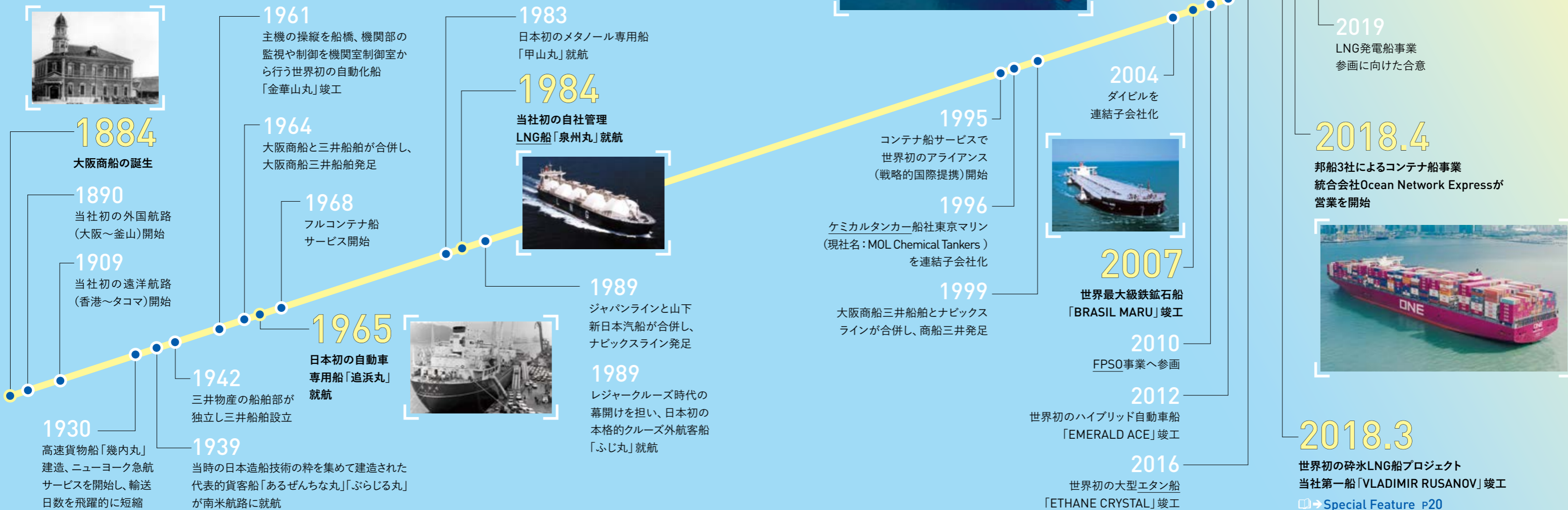


挑戦と変革の歴史

商船三井は130余年の歴史の中で、顧客のニーズと時代の要請を先取りし、時に様々な困難を克服しながら、世界最大級の総合海運企業へと成長してきました。それを支えてきたものは「挑戦と変革」の精神です。これからもこの精神を持ち続け、次の130年へ前進していきます。



外部環境の変化に応じた自己変革

1884 - 1945

生き残りのため、小規模船主が集まって誕生。果敢な外国航路への進出と拡大

当社の創業は1884年、瀬戸内の船主たちが93隻の船を現物出資して設立した大阪商船にまでさかのぼります。日本の鎖国が終わり明治維新を迎えると同時に、内航・外航ともに海上輸送への需要が飛躍的に高まったことを受け、当社は1890年代に近海航路の積極展開、その後1910年頃からは遠洋航路への進出も果たすなど、日本の対外貿易の発展を支える礎として成長を遂げました。

1946 - 1999

戦後復興と高度経済成長の中、世界有数の総合海運企業へ

第2次世界大戦によって日本の民間商船隊は壊滅的な打撃を受けましたが、日本が敗戦から立ち直り復興を遂げる中、当社も海上輸送を通じて日本経済の発展に寄り添いながら、多様な船舶を持つ総合海運会社へと発展してきました。船舶の専用船化・大型化のニーズにいち早く対応し、世界初の自動化船、日本初の自動車専用船など技術面においても挑戦を繰り返し、新たな付加価値を生み出すことで、事業領域の拡大を果たしました。

2000 - 2008

中国の経済発展と資源需要増を見据えた資源・エネルギー分野への積極投資

資源・エネルギー輸送を得意としていたナビックスラインとの合併(1999年)を経て、中国の経済発展と資源需要急増を見越してこの分野に積極投資を行い、鉄鉱石・石炭などを輸送するドライバルク船や、原油・石油製品などを輸送する油送船の整備を進めました。これらの先行投資が実を結び、2007年度には中国爆食経済に牽引された未曾有の海運ブームにより、当社は史上最高益を計上しました。

2009 -

事業環境の激変に対応し大胆な事業構造改革を実施。新たな時代に求められる海運業のあり方へと転換

世界経済成長減速と船腹供給過剰を背景に、海運市況は一転して下落し、低迷が続きました。事業環境の悪化に対応すべく、当社はドライバルク船部門を対象とした構造改革や、邦船3社によるコンテナ船事業統合を実施しました。その上で、LNG船・海洋事業など強みのある分野に集中投資を行いながら、環境・エミッションフリー事業といった新たな時代のニーズに応える事業領域を開拓し、世界の海運をリードする存在として挑戦と変革を続けます。

Our Foundation

価値創造モデル

商船三井グループは、経営計画「ローリングプラン」とサステナビリティ課題に関する取り組みの両輪で、10年後の目指す姿である「相対的競争力No.1事業の集合体」に向けて当社グループならではの高品質な輸送サービスを提供することで、人々の暮らしと産業を支える不可欠なライフラインとして、社会課題の解決と企業価値の向上を実現します。

顧客・社会

- 海洋・地球環境の保全
- 海の技術を進化させるイノベーション
- 輸送を通じた付加価値の提供
- 地域社会の発展と人材育成
- 事業を支えるガバナンス・コンプライアンス

商船三井のサステナビリティ課題 (マテリアリティ)

☞P26

社会に対するマイナス影響を最小化しつつ、当社の社会的価値を最大化する社会課題への取り組みを通じ、SDGsに貢献



輸送を通じた付加価値の提供 ☞P28

世界中の人々の暮らしと産業を支える高品質な輸送サービスの実現

- ・安全・安定輸送の実現
- ・高品質な輸送サービスの実現
- ・大量かつ低コスト一括輸送による高い経済性の実現
- ・新興国におけるエネルギーインフラの構築

外部環境の変化を踏まえたPDCA

経営計画 「ローリングプラン2019」

☞P12

1. 海洋事業を中心に強み分野への経営資源の重点投入
2. 顧客目線にたったストレスフリーなサービスの提供
3. 環境戦略の推進とエミッションフリー事業のコア事業化

10年後目指す姿

相対的競争力 No.1事業の集合体

安定利益の積み増し
及び
その他変動利益の獲得

海洋・地球環境の保全

☞P32

海の技術を進化させるイノベーション

☞P36

地域社会の発展と人材育成

☞P38

事業を支えるガバナンス・コンプライアンス

☞P49

海技力
安全運航

ICT

技術開発力

人材

ガバナンス

商船三井の事業基盤